

現場の記録から

▶ 多摩事業本部 国立東事業所 薄井 大輔

キュービクル内のコンデンサーに巻き付いたつる草を発見

私たちは、電気を安全で効率的にお使いいただくため、日々の点検業務において、さまざまな角度から設備の安全を見守っています。

つる草が高圧機器に絡みついで、停電事故（地絡事故）になる事故は時々発生します。つる草は成長が早いため、何度取り除いても、すぐに高圧機器に絡みついてくるため、私たち検査員を困らせる存在です。今回は、そのつる草に関する対応事例をご紹介します。



ある日の午後2時30分頃、月次点検でお客さまであるレストランに訪問しました。お客さまへあいさつした後、点検に必要な鍵をお借りして、店舗の裏側・屋外にある変電設備（キュービクル）に向かいました。

点検場所は日頃から人が立ち



入ることがないような場所。このため、キュービクルの周囲には雑草やつる草がはびこっています。よって、こちらのお客さまについては、「冬季以外の点検は草むしりから始める」ことが定例になっていました。

当日も、例年と変わらず雑草やつる草がはびこっていたため、中腰でかがんで、草をむしりながら少しずつ前進し、キュービクルに近づいていきました。

ようやくキュービクルに手が届く位置まで近づいた時、キュービクルの中に侵入している一本のつる草を発見！ つる草が高圧機器に触れていないことを願いつつ、さらに近づくと「パチッ、パチッ」と微かな音を耳にしました。

イヤな予感はだんだん悪いほうへ増幅していきます。こんな

時こそ、「落ち着いて」と自らに言い聞かせます。

キュービクル内部のつる草の状態を見てから対応しようと、慎重にキュービクルの扉を開けてみました。

するとどうでしょう。やはり、高圧コンデンサーの充電部につる草が絡みついていた。無意識に思わず、「危ない！」と声が出てしまいました。

しかし、ここで慌てて、つる草を引っ張ったり、高圧充電部に近づいて取り除いたりすることは、停電や感電の危険が伴います。このように絡みついたつる草を安全に除去するには、まず停電をして、安全を確認することが必要です。

すぐに、お客さまに現場をご覧いただき、このままだと停電事故になる恐れがあるなど、想

定される事象を説明。早急に停電して、つる草を除去したい旨をお伝えしました。

お客さまからは、レストランの営業が終わり、閉店後に停電して改修することについてご承諾いただきました。

同日の店舗閉店後、午後11時に再度訪問して、当協会2人の作業員で停電作業を行い、つる草を除去しました。

お客さまからは、「停電事故にならずによかった」と感謝の言葉をいただきました。

異例の深夜の作業になりましたが、事故を未然に防げた達成感とお客さまからの感謝の言葉で、ようやく安心することができました。

この事例がきっかけとなり、キュービクル周囲に雑草が出始めたら、お客さまが定期的に除草作業をしていただくか、雑草の成長の確認をしていただけることになりました。というのも、



月次点検で私たち保安協会の点検にお伺いする期間では、成長が早いつる草を除去することが間に合わない場合もあります。また、キュービクル内につる草が入っていたら、触らずに保安協会へ連絡していただくこともご確認いただきました。

余談として、今回の停電作業時、停電することによって安全が確保できたことをよい機会として、通常の月次点検では確認できない高圧充電部の周囲について調査しました。他に改修が必要などところがないか、さまざまなポ

イントを接近して確認してみたのです。

すると、月次点検では見つけれなかった、キュービクルの屋根部付近にある雨除けのところに、蜂の巣を発見しました。

つくり始めの小さな蜂の巣でしたが、合わせて除去することができました。

キュービクルは、人が近づかない場所に多く設置されています。一旦、蜂の巣がつけられると、知らないうちに大きくなって、人に危害を加えるようになることもあります。

今回の事例のように、キュービクル内部につる草が入り込んでいたり、蜂の巣を見つけたら、当協会までご連絡ください。

